

原発のない社会、生活と生業の再建を

岩 澄 友

二月十三日深夜。福島県沖を震源とす

る最大震度6強の地震が発生しました。三月十一日のことが一気によみがえり、原発は大丈夫かと、不安がよぎりました。東日本大震災も東京電力福島第一原発事故もおわっていません。

私は、福島県喜多方市の出身です。父の転勤で県内を転居し、今は福島市に住んでいます。母の実家はいわき市、父は金山町というところで、夏は海、冬はスキー、新鮮な魚や獲りたての山菜を食べ、海の恵みも山の恵みも享受してきました。二〇一〇年の参議院選挙で福島選

私は駐車場にいました。立つていられないほど強く長い揺れが続き、車にしがみつきました。当時私がいた日本共産党福島県委員会はすぐ対策本部を立ち上げ活動を始めました。翌日、東京電力福島第一原発1号機が水素爆発。ここに居ていいのか、みんなと離ればなれになつてしまふのではないか、不安で押しつぶされそうでした。初めてのことばかりで衝突することもありましたが、その度に学び、話しあってきたからこそ、何とか乗り越えることができました。

「一時帰宅で初めて自宅に帰ると、動物が住み着いた跡があつて、とても住める状態ではなかつた。あんなに帰りたいと思っていた気持ちがどこかにいつてしまつた」と訴えた南相馬市小高の方々。アセンターを設置。全国の党组织を三県に分けて、支援活動を進めてきました。福島県そのものが故郷です。

私は県のボランティア担当になりました。県内四ヶ所にセンターを設置し、島県の担当になつた京都、奈良、兵庫、四国のみなさんを中心に、全国から支援をいただきました。春と夏には、青年ボランティアセンターも開設されました。仮設住宅や復興公営住宅へ、支援物資を届けながら訪問すると、その方がこれまでどんなくらしをし、どうやつて避難をしてきたのか、どんな思いでいるのかなど、話は尽きませんでした。

「原発事故さえなかつたら」という言葉を何度も聞いてきました。原発事故さえなかつたら、失うことのなかつた命があり、家族がばらばらになることも、生業を奪われることもありませんでした。一人ひとりの人生を、日常を、丸ごと奪つたのが原発事故だということを何度も突きつけられました。

「一時帰宅で初めて自宅に帰ると、動物が住み着いた跡があつて、とても住める状態ではなかつた。あんなに帰りたいと思っていた気持ちがどこかにいつてしまつた」と訴えた南相馬市小高の方々。アセンターを設置。全国の党组织を三県に分けて、支援活動を進めてきました。福島県そのものが故郷です。

去りにされたよう。造林し手入れしてき
た山は、手つかずのまま。今植えないと
孫に渡せない。先祖代々引き継いできた
ものを、自分の代でゼロにされるのは辛
いし悔しい。首相にこの荒廃した姿をみ
てほしい」と話してくれたご夫妻。今は
亡くなられた、馬場有前浪江町長と懇談
した際、「やっぱりふるさとを思わない
人はいないですよ。ふるさとを何とか残
していきたい」と言ったあと絶句し、涙
をこぼされた姿は忘れられません。みな
さんの話を聞くたびに、「政治を変えた
い」という思いを強くしてきました。

二〇一六年の参議院選挙で国会に送つ
ていただきながら、国と東京電力に対し
て、被害の実態を示し、被害者の生活と
生業の再建に責任を果たすよう何度も
迫つてきました。

国は、原発からの距離で避難指示区域
の内外を分けて「支援」に差をつけ、被
害者を線引きしてきました。「福島への
責任を果たす」として、膨らむ原発事故
の処理費用を国民負担にするなど、事故
のツケを国民に押しつけるとともに、再
稼働で稼ぐとしてきました。さらに東京
電力が負担するべき費用を国が負担する
仕組みに変えるなど、東京電力の責任を
免罪し救済を進めてきました。

一方で、原発事故が終わったことにさ
れようとしています。例えば、県が公表
する避難者数には復興公営住宅へ入居し
た方や、区域外避難、いわゆる自主避難
の方も含まれていません。国に避難者の
実態を自らの責任でつかむよう迫つてき
ましたが、いまだに福島県と避難者を受
け入れる自治体任せにしています。東京
電力は「最後の一人まで賠償貫徹」など
三つの誓いを掲げながら、損害を自ら証
明しろと被害者に迫り、賠償を打ち切つ
てきました。「福島切り捨て」を許すわ
けにはいきません。

これをはね返してきたのが県民の世論
と運動です。県議会では、新日本婦人の
会のみなさんが提出し、共産党県議が紹
介議員になつた、福島第一原発と第二原
発の全基廃炉を求める請願が全会一致で
採択されました。同様の意見書や決議
は、県内五十九市町村すべてで可決され
るなど、世論と運動が国と東京電力に廢
炉を決断させました。

今大きな問題となつてゐる汚染水の取
扱いをめぐる問題でも、海洋放出をめぐ
り、福島県内の四十一市町村議会で反
対、もしくは慎重な対応を求める意見書
があがりました。漁業者は繰り返し反対
を表明し、全漁連は反対決議を全会一致
で採択しています。国は当初の計画通り
に方針を決めることができずにいます。

「自分たちと同じ思いをする人をもう
つくりたくない」という言葉も何度も聞
いてきました。原発事故後、「再稼働反
対」を求める声は全国に広がり、今や國
民の過半数を超える世論となつていま
す。国会では、野党が原発ゼロ基本法案
と、これを実行するための再エネ推進法
案を共同で提案しています。しかし政府
は脱炭素を口実に、これからも原発にし
がみつこうとしています。これほどの裏
切りはありません。

新しい社会を求める国民の声が、分断
を乗り越え、政治と社会を前に進めてき
ました。多くの方々と手をつなぎ、原発
のない社会を実現し、被害者の生活と生
業の再建に国と東京電力が責任を果たす
よう声をあげ続けたい。そのためには政治
を変えたい。「政権交代で原発ゼロへ」
を合い言葉に、国会でも力を尽くしたい
と思います。

民主文学

mins'yubungaku

4
Monthly
April
2021
No.667

若い世代特集

上村ユタカ 「偽物」

松本たき子 「ある夫婦の話」

細野ひとみ 「コロナ禍前夜」

秋吉知弘 「飛ばない鳥」

空猫時也 「風渡る野に線路
は続く」

東日本大震災十年

伊東達也

「原発事故から十年
『非核の火』を灯す」

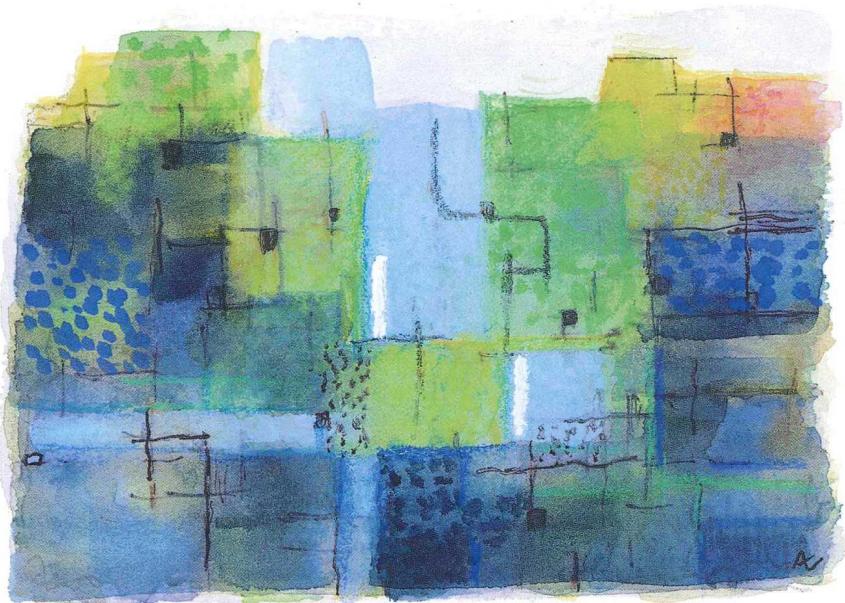
和合亮一 「詩 十年」

隨想 早乙女勝元 岩渕友

長編完結作を読む

宮本阿伎

「柴垣文子『森の記憶』を読む」



信用論の本論
貨幣資本の蓄積・運動の本格的研究に挑戦する

新版 資本論 10



カール・マルクス著

日本共産党中央委員会社会科学院監修
信用制度下の貨幣資本の蓄積と運動は、再生産過程と恐慌にどう関わるのか。マルクスの模索と探求を浮き立たせる。

子どもの中の「宝物」を探す親、教師のために

子どもの言葉が教えてくれる

セーノ先生の学級ノート

制野俊弘著

定価：本体1700円+税
ISBN978-4-406-06384-5

「班日記」に綴られた生徒の生活、「子育てノート」に記された親の悩みから、子どもの行動と心、背後にある世界を丹念に読み解く中学教師時代の実践をまとめました。

いちばんたいせつなもの 斎藤貴男作 おとないちあき絵

児童書

思春期一步手前。言葉にならないけど愛おしい

定価：本体1400円+税
ISBN978-4-406-06011-0

読みもの
小学校中学生から

始まりは貝がらのとりかえっこ。子どもの繊細な世界を爽やかに描く著者初の児童書。

《調べ学習／小学校高学年から》
各巻定価：本体3000円+税



児童書

④「疫病」と日本人 ⑤感染症に国境なし ⑥感染症との共存とは？ 山本太郎監修 稲葉茂勝著

子どもたちに正しい理解と対応を、ビジュアルに解説したこのシリーズ。後半3冊は日本に焦点を当てます。

《調べ学習／小学校高学年から》
各巻定価：本体3000円+税



対決！卓球部



児童書

気力の勝負だ。勇気をもって自分から攻める！

初の地区大会出場を果たした亀中卓球部。

三回戦の相手は、

沢田先生率いる東光中。

亀中卓球部の顧問だった。

亀中卓球部の顧問だった。

小さいけれども、大きな力と役割をもつ虫たち

虫っておもしろい！ どうなるの？

《調べ学習／小学校低学年から》
定価：本体3000円+税
ISBN978-4-406-06017-2



児童書

豊かさを作り出していくことを学びます。

養老孟司文 海野和男写真
人間よりはるか昔の5億年前から、地球の

豊かさを作り出していくことを学びます。
虫がいなくなったら
どうなるの？

ウイルス・感染症と「新型コロナ」後のわたしたちの生活

《調べ学習／小学校高学年から》
各巻定価：本体3000円+税

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-6
☎ 03-3423-8402 FAX 03-3423-8419
☆送料300円（着払いご利用の場合、
ご注文税込金額2500円未満は送料800円）

新日本出版社3月の新刊

本広告に記載の内容は変更する場合があります。

編集・発行 日本民主主義文学会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 サンレックス202
電話 03(5940)6335 振替00120-3-58076
ホームページ <http://www.minsyubungaku.org>

民主文学 4月号 目次

偽物

上村ユタカ 6

大学がオンライン授業になって、朗助は部屋にこもる生活になつた。そのころから不可思議なことが次々と……。

ある夫婦の話

松本たき子 26

保育園児を子どもにもつ恵は、夫と子育てをしながら多忙な日々を送つていたが、次第に夫に対しても不公平感がつのるのだった。

コロナ禍前夜

細野ひとみ 38

家畜人工授精師の圭人は、酪農家たちと麻雀する中で、競争を迫られる酪農経営の現実がみえてくるのだった。

飛ばない鳥

秋吉知弘 46

家に引きこもっている昌志は、昼の公園で、五、六歳の男児に声をかけられた。枝に引っかかった飛行機をとつてくれと言うのだ。

風渡る野に線路は続く

空猫時也 66

「僕」は、二十歳からの闘病生活が十年になろうとしていた。一年近くの入院が終わると、ほんやりとした不安が……。

ウイングウイング

最終回

和田逸夫

154

連載エッセイ

道は果てなし 第三回

山本 司

116

東日本大震災から
十年

原発事故から十年「非核の火」を灯す 伊東達也

86

十年 (詩)

和合亮一

92

一難去つてまた一難

早乙女勝元

94

原発のない社会、生活と生業の再建を

岩渕友

96

長編完結作を読む

大らかな飛翔へのあこがれ

宮本阿伎

104

—柴垣文子「森の記憶」を読む

「貧しき人々の群」との出会い

泉恵子

98

隨想「私と百合子」

「広場」を読んでの感動

柏朔司

100

何度も百合子作品に出会いたい

前田千代子

102

思案投げ首小説作法 (10)

仙洞田一彦

122

大会に向けた考へる

「民主主義文学運動」を学び、そして語る為に 田本真啓

110

詩

短歌 柴田道明 80

俳句 烏羽しま子 84

村山俊太郎忌墓前祭

隨想四季

コロナ禍の富士山

佐藤ゆう子 114

文芸時評

宮本百合子没後七十年記念特集のことなど 松木新 126

支部誌・同人誌評

女性の生き方をとらえる作品など 岩渕剛 132

書評 菱崎博『舞鶴湾の風』 田村好男 85

わが支部 いぶり・ひだか支部 172

文芸ジャーナル

牛久保建男 137